

《記者発表資料》

新型コロナウイルス感染拡大にともなう子どもと学校実態調査アンケート集計結果について

2020年7月 全日本教職員組合（全教）

1、調査の目的

新型コロナウイルス感染拡大が子どもたちの成長・発達にも深刻な影響を及ぼしています。今後、新型コロナウイルス感染拡大が長引くことが予想されるもと、子どもたちと各学校の実態をふまえた対応をおこなう必要があります。全教は、新型コロナウイルス感染拡大が子どもたちと学校・教職員にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする必要があると考え、アンケート調査を実施しました。

2、アンケートの概要

- 調査期間：2020年5月～6月
- 調査方法：全教・教組共闘連絡会が各都道府県組織を通じて各分会組織に依頼し、代表者が回答
- 調査事項：別紙アンケート項目
- アンケート回答について
 - ・回答総数785校（小学校271校、中学校110校、高校294校、特別支援学校88、その他9校、無回答13校）
 - ・回答のあった都道府県は31都道府県
 - ・校種の「その他」は、義務教育学校・小中一貫校・中高一貫校ほか

3、調査で明らかになったこと（要旨）

- (1) 休校中、ほとんどの学校で家庭学習の配布がおこなわれたが、定期的な家庭連絡が約7割にとどまる。休校中のオンライン学習は約1/3の学校で実施。しかし小学校で双方向のオンライン学習は4.1%であるなど、オンラインにより子どもの学習を保障する環境は整っていない。
- (2) 学習の回復のために、ほとんどの学校で長期休業期間の短縮と行事の削減が予定されている。また、学習単元の調整などがおこなわれている学校は約1/3にとどまっている。学習の回復のために土曜授業を実施・拡大した学校や放課後補習を実施する（又は増やす）学校は少ない。
- (3) 職員室の3密回避対策がとられている学校は、約半数にとどまっている。開校後、子どもたちのケアや学習指導、消毒作業等により多忙を極め、また在宅勤務を取得することも困難となっており、教職員への感染拡大防止対策が求められる。
- (4) 20人規模での授業など少人数学級を求める記述が非常に多い。40人学級では、「3密」回避は不可能であり、20人規模での授業をおこなうことができる条件整備が早期に求められる。また、消毒作業等を専門のスタッフによりおこなうことや特別教室を含めたエアコン設置は急務となっている。

4、アンケート結果の特徴について

(1) 休校中のとりくみについて

- ① ほとんどの学校で家庭学習配布をおこなうなど家庭学習課題を提示している。一方、定期的な家庭連絡をおこなった学校が約7割にとどまっている。家庭学習配布のみとなっている学校もあることが予想され、子どもたちへの必要なケアや指導ができなかった学校があったことが推測される。

【設問1-①】休校中のとりくみ、「家庭学習配布」	91.0%（小学校：94.1%）
「定期的な家庭連絡」	72.3%（小学校：74.3%）

- ② オンライン学習は47.0%の学校がなんらかの形で実施した。休校により子どもと対面できないもと、少しでもコミュニケーションをとることや学習機会を提供することなどが模索されている。しかし、双方向のオンライン学習の実施は小学校で4.1%、中学校で8.3%など、家庭や学校のオンライン環境は不十分で、参加できない子どもも多く、保護者の支援がないと学習できないなど、すべての子どもの学習を保障する環境は整っていない。また、子どもの意欲に差があることや子どもの反応を把握することが困難であることが指摘されている。

【設問1-①】休校中のとりくみ

「オンライン学習（双方向）」 10.9%（小学校：4.1%、中学校8.3%）

「オンライン学習（授業、教材配信、TV放映など）」 36.1%

*** オンライン学習の内容や、その問題点・利点等について（自由記述）**

《小・中学校》

- 子ども一人ひとりが自分の学習で足りないところを家で都合のよい時間に学習できる。自分で学習する習慣がつく。
- 配布したプリントに即した動画を配信したが視聴率はクラス（1年生）の30%程度だった。
- 保護者等の支援がないとオンラインではできない児童もいた。保護者の負担が多過ぎた。
- 全家庭オンライン学習の環境が整備されていない点、学力差から予習的な学習ができる生徒とできない生徒がいる点、学校再開後に予習部分もすべて指導し直す必要がある点、評価に反映させられない点などから、オンライン学習は世間の批判をかわし、学校や教育委員会は考えていますという姿勢を見せるだけの「アリバイ」にしかになっていないと感じる。
- 保護者や子どもたちへ学校からのメッセージを伝えることはできたが、動画を見られない家庭は学校とのつながりがほとんど絶えていた。
- 一方的な配信になってしまったが、1年生・4年生が何回か配信して、担任の顔もわからずにいた子どもたちは親しみをもてた。親からも毎回楽しみにしているとの声があった。やっている子はすごくやっているが、やっていない子はやっていない。子どもたちがどう理解しているのかはつかみづらい。

《高校》

- 双方向ではないので、理解したか判断できない。オンライン学習できない生徒がいる。
- 授業なみの量をだすと、やらない（やれないも含む）生徒がでてくる。登校後、答え合わせ的な授業となり、ペース・雰囲気がよくない。
- 全員が受け取れるわけではない。短時間のビデオしか配信できない。何もないよりはまし。生徒たちは学校とつながっている感じがしたそうである。
- コロナの状況において登校せずに授業が受けられるのが利点。動画を配信してもどの程度見ているか？生かされているかが分かりにくい。能力差につながるおそれがある。
- お互いに顔が見られるのは良い。家庭でのモチベーションを上げる目的で実施したクラスもある。教室での対面授業にはならず、全く別の授業展開、内容等工夫が必要。授業の準備に時間がかかる。
- 家庭学習に役立つ面はあるが、作成するのに労力がかかり、また実際の授業を補完するものとはいええない（実習等を重視する科目にオンライン授業はなじまない）。
- 映り込み、背景で特定の情報がもれてしまう危険性から慎重になっている。
- オンライン授業は、必要な道具が学校備品でなくてスマホなどの教員の私物をあてにしている。
- 生徒と連絡をとりあえるのはいいが、まだ教師・生徒双方に情報リテラシー、モラルといったものが確立されていない。

《特別支援学校》

- 特支の子は、オンライン等の遠隔授業は難しく、朝の会や健康観察、体操等に取り組むのみにとどまった。特に小さい子は自分で機器を扱うことが難しく、家庭の協力が必要。環境が整わない家庭もあり、差が出てしまう。

(2) 児童・生徒の感染予防対策について

- ① 多くの学校で消毒液の配備や検温、分散登校などの対策がとられているが、少人数指導は約3分の1にとどまっている。

【設問2-①】学校での感染予防対策について

「教室等への消毒液の配備」	89.2%	「子どもの検温」	86.0%
「分散登校」	60.0%	「少人数指導」	32.9%

- ② 今後必要と考えられる感染予防対策について、少人数学級や教職員増を求める声が多い。また、子どもたちの下校後、教職員で毎日1時間程度作業をおこなうなど、消毒作業が教職員に大きな負担となっている。消毒液やサーモセンサー等感染防止のための物品配備とともに、消毒作業について専門の人員配置や特別教室を含む全教室へのエアコン配備は急務。

* 今後必要と考えられる感染予防対策（自由記述）

- 少人数指導や分散登校は、再開後の一定期間のみ行われていた。6月以降はクラス40人の通常の授業形態となっている。やはり過密な状態を解消する必要がある。
- 3密を避けるため30人学級の実現を。
- オンライン授業のための通信回線の拡充、強化。
- 消毒液購入の予算が各校についたが、物が無い状況。ある程度は国で確保すべき。手洗い場の水道蛇口の数が足りない。
- 扇風機が古く破損もあるので新しいサーキュレータを購入、設置してほしい。
- 養護教諭の増員。保健室の環境整備（仕切りや個室など隔離スペース）。
- 30人以下の少人数学級で混み具合の緩和ときめ細やかな指導。
- 分散登校、少人数指導、こまめな健康観察、施設の消毒等を可能にするための、大幅な教職員の増員。
- 1クラスの人数をまず減らすことが必要。消毒、清掃作業の業者を入れてほしい。
- 少人数学級にならないとこれ以上はできない。
- 消毒液の安定的な配給。非接触型体温計の全学級数分の配布。少人数指導のための人員増員。
- 消毒作業を続けるならそれ専門の人員が必要。毎日小1時間かかっているの、フルタイム授業の後、休憩を犠牲にしている。
- 職員の早急なPCR検査か抗体検査の実施。
- 消毒液が大変不足している。少人数指導を行うのに、1クラスの人数が多すぎる。
- 消毒作業が教職員の負担になっている。人的保障を含めて対策が必要。熱中症対策について一番心配である。
- エアコンがない教室へのエアコン設置。
- 特別教室にエアコンがないので、早急に実験室など全特別教室にエアコンを設置してほしい。
- 換気のためのサーキュレーター設置。
- どうしても生徒は集まると密接してしまうので、今後もずっと分散登校をした方がいいのでは。
- 消毒などに携わる外部職員の派遣。

(3) 実施できなかった学習の回復のために実施する（又は予定の）事項について

- ① ほとんどの学校で長期休業期間の短縮と行事の削減が予定されている。学習の回復のために土曜授業を実施・拡大した学校や放課後補習を実施する（増やす）、または予定する学校は、長期休業期間短縮・行事縮減と比べると少ない。

設問3 実施できなかった学習の回復のために実施する（又は予定の）事項

「長期休業期間の短縮」	92.5%	「行事の縮減」	84.7%
「土曜授業の実施・拡大」	12.4%	「放課後補習実施（又は増）」	7.1%

- ② 体育祭・文化祭・学習発表会・合唱コンクールなどの行事の中止が予定されている。また、夏休み短縮とともに、一日7時間授業や定期テストの日数を減らし授業時間を確保することなどが予定されている学校が見られる。

* 具体的な事例（自由記述）

- 今のところ、行事やクラブなど、一切何もない。水泳も授業参観もない。夏休みも10日に短縮。密を避けるためにトイレ休憩時間を長くし、配膳や放課後の消毒時間確保のために40分授業にするなどの校時の見直しをしました。その結果、子どもの休み時間がほとんどなくなった。（小）
- 夏休みは、8月6日から16日まで。体育大会、社会科見学等の校外学習の中止（修学旅行は検討中）（小）
- 本校は月・木・金が7時間授業で40分授業。午前中に5時間。4年生を担当しているが、5時間目でもう「帰りたいよ」の子どもの悲鳴が……。7時間よりもゆとりが欲しい。（小）
- やっぴいもの、市が決めるもの、学校ごとで考えるものの区別がわからずストップしたまま。（小）
- 運動会、学習発表会、水泳、社会見学、参観日（2学期以降は未定）は中止。各学年で、教科の単元の時間数の調整を行った。算数のみそのまま。（小）
- 体育祭、合唱コンクール、PTA行事なし。前期中間テストなし（中）
- 夏休み8/8～8/16。そのうち8、9、10、15、16は休日但实际上は11、12、13、14の4日間の夏休みとなる。平日7時間授業の日がある。（中）
- 夏休みが8/6から8/16になった（11日間）。冬休みが12/26～1/4になった（10日間）。体育大会、文化学習発表会がなくなった。（中）
- 夏季休業の大幅な縮減。2学期制の導入。定期考査を1日で実施。体育大会、文化祭、宿泊行事の中止（中）。
- 夏季休業中に行われている就職指導や進学者の講習の時間等が確保できない。（高）
- 夏休みを短縮（8/6-19）。遠足・学校祭中止。（高）
- 遠足の中止、PTA総会の中止、中間テストの中止、高校総体の中止、ものづくりコンテストの中止、発明工夫コンテストの中止、各国家資格の受験の中止および延期。（高）
- 7月に開催予定だった体育祭は2学期に実施もしくは中止（検討中）。（高）
- 新入生歓迎行事等の中止。生徒向け講演会の中止（情報モラル）。（高）
- 夏休みを短縮、授業時間の延長、始業式・終業式の日々の授業、行事を各教科への見直し。（特支）
- 行事の縮減については、実施困難と言うことでほとんど中止となっている。（特支）

(4) 教職員への感染予防対策やサービスについて

- ① 在宅勤務の奨励はされているものの、勤務時間は縮減されていない。約半数の学校職場では職員室の「3密」回避対策はおこなわれていない。学校再開されてから実際には在宅勤務はほとんど取得できない。教職員の感染リスクは高いと考えられる。在宅勤務や時差出勤等が可能となる教職員の増が緊急に必要。また、感染リスクの高い養護教員はじめ教職員のPCR検査を求める声が多い。

この設問においても、少人数学級や消毒作業などへの専門の人員配置、エアコン設置や熱中症対策を求める声が多い。

設問4、教職員への感染予防対策やサービスについて

「在宅勤務の奨励」	73.1%	「勤務時間の縮減」	11.8%
「職員室の3密回避対策」	51.0%		

* 必要と考えられる具体的な手立て（自由記述）

- フェイスシールドの配布。防護服（養護教員のみ）配布。
- 勤務時間の割り振り変更。自動車通勤の緩和。
- 会社や企業では万一感染者が出たら職場の機能が失われるため、積極的に在宅勤務を進めるが、学校・学校管理職・教員には、そうしたリスク管理の感覚がない。学校の職員室でのデスクワークが三密であることがわからないのではないかな。
- 教室の過密状態の解消が一番。
- 在宅勤務、自宅研修のさらなる奨励。
- 少人数授業、PCR検査、抗体検査
- 教職員の3密回避対策があまり施されていないので進めること。授業や給食、清掃指導における、うつさない、うつされないための予防策→手袋・マスク・フェイスシールドの配布。教室などの業者による消毒。
- マスクよりもフェイスガードを配布してほしい。
- 業務改善。仕事削減。再開後、かえって忙しくなり、免疫力低下が不安。クラスターが起きないと良いと切に思う
- 教室内の児童の人数を少なくする。20人くらい。教室の消毒等を担任がやっているの、他でやってほしい。
- 自動車通勤許可
- 不要不急な仕事をなくし、早く帰宅できるようにする。換気。手洗いの徹底。毎日の検温。在宅勤務をする際は何割の人がしなければならぬのかを徹底する必要がある。
- 勤務状況はひっ迫している。在宅や交替勤務ができるよう、人を増やすしかないと思う。
- 人を増やして少人数のクラスで学習できるようにしてほしい。40人は多い
- 体調が悪い時、発熱時にすぐにコロナウイルスかどうか検査できる体制が必要。発熱した時、どのくらい学校を休めば良いか判断が難しい。検査できれば働けるが、できなければ不安なままか休むかになる
- 抗がん剤使用者で遠方より電車通勤をしている職員も、妊婦と同様に在宅勤務を認めてほしい。免疫低下状態で車で感染リスクの高い人が通うことは産業医よりやめておくべきと助言。しかし県に策がない。
- 暑くなってエアコンを制限なく使えるようにしてほしい。
- 自分たちが感染しているのかわからない（無症状）。だから教職員への検査も必要なのではないか。同時に生徒に対しても検査をする必要がある。
- 空き時間の確保。子どもと週に30時間近くも接していると。感染の危険が高まる。
- 職員室の3密回避対策は、初めのうちはいろいろと工夫していたが、児童が通常登校するようになった現在、なし崩しである。今現在、教職員がコロナウイルスを持っていないという確証がほしい。児童はともかく公務員の職員が感染源になってしまうのはさげたい。

(5) 子どもたちの特徴的な声・様子や父母・保護者の要望等について

《子どもたちの特徴的な声・様子》

- ① 約3か月の休校中「早く学校に行きたい」「友達や先生に会いたい」と願い、再開されて「友達と会えてよかった」「学校に来て楽しかった」などの声が多い。登校しにくかった生徒が分散登校などで登校しやすかったとの記述が見られる。
- ② 一方、「昼夜逆転」「ゲーム漬け」など生活リズムが乱れている子どもが多く見られる。休校期間中の家庭学習状況に大きな差があり、学力の格差だけでなく、生活リズムの確立などでの格差も大きい。それが、再開後の学校生活への意欲の違いとなっている。
- ③ 新入生への新たな生活への指導が充分おこなえず、学校生活に馴染んでいないケースが多い。特に小1の場合は顕著。
- ④ 中3、高3の生徒について、部活動の最後の発表の機会が失われ、大きなショックを受け、不安定になっている生徒が多い。また学校行事がなくなってしまうことへの心配が大きい。進路について情報が少ないことや進路選択に関わって就職や家計収入の急変などについての不安が大きい。
- ⑤ 定時制高校の生徒にとって、アルバイト収入の減少が大きな打撃となっている。

- 登校再開に多くの子は喜び、遊べること・話せることを楽しみにしていた。一方、不安を抱えている子もいる。(小)
- 1年生は保幼からの移行がうまくいかず、学習へ臨む気持ちが持ちきれていない。学校に来にくい子、授業中、集中できない子、学ぶ意欲が持てない子が多い。(小)
- みんなと勉強できてうれしいが、新しい生活様式は子どもの発達を疎外するおそれがある。心のケアや人間関係の構築を困難にしている。(小)
- 子どもたちに声をあげるすきを作らないようにしているのが現状。子どもたちに十分説明し、思いを表現できるようにまずすべきだと思う。(小)
- 水泳の時間減や活動内容の単調さに不満。給食の時間の楽しさがない。勉強が遅れないか心配。修学旅行に行けるのかな。(小)
- マスク外したい、ダメダメ(禁止)が多くていやだ。学校に来にくくなった子がいる。(小)
- 不登校傾向の子どもたちがさらに来にくくなった。発達障害のある児童は見通しが持ちにくく不安定になっている。家庭学習が難しい子は課題を提示されてもできにくい。家庭で支援が受けられる児童はできる。課題は保護者に大きく左右され、おうちの人のかわり方を評価しているよう。真面目な保護者は教え方が難しいと悩むし、それを申し訳なく思う。(小)
- 新1年生が、「学校が楽しくない」「友達ができない」親が仕事でずっと留守番のため、生活リズムが崩れて元に戻せない。1年生を2年生が学校を案内したり、6年生が毎日お世話をしたりする風景が全く見られず、成長の実感が得られない。1年生が未だに靴の脱ぎ履きに時間がかかったり、集団行動に慣れなかったりして、幼児のままのような感じがする。1年生の保護者に面と向かって説明する機会が一回もなかったため、登下校のしかたや持ち物など、文書だけの説明になってしまった。すると、なかなか意図が伝わらず、小学校の保護者としての心構えのようなものができていなくて困ることが多い。(小)
- 友だちとかかわれるので学校に来たい。(中)
- 登校可能日があると子どもの顔が生き生きしている(中)
- みんなに会えてうれしい(中)
- 昼前まで寝ていたり一日中パジャマのことも。子どもだけで一日過ごしていた。長い休み明けのリズムを取り戻すのが大変な子がいる。(中)

- 昼夜逆転の生活になったり、休校が開けてから登校しづらい生徒も若干みられる。(高)
- 生活のリズムの乱れから夜型になり、昼まで寝ている生徒が多かった。(高)
- 生徒の職場(定時制なので)の仕事が減って給料減がきびしい。4年生の進路指導がより困難化。(高)
- 登校をして大変喜んでいる様子がうかがえる。授業が終わってもなかなか帰ろうとせず、教員を巻き込んで話をしている。(高)
- 特に3年生は集大成になるはずの部活動ができなくなり、せめて文化祭を思い出に残るものにしたいという気持ちが大きい。(高)
- 行事がなくなったことや部活動の大会がなくなったことへの不満、特に3年生。(高)
- 「友だちに会えていない」「生活リズムが崩れた」「学習面が心配」「運動不足」など生徒の意見が多かった。一方で少数ではあるが、「やりたいことができ、充実していて楽しい」「課題をがんばった」というポジティブな意見もあった。全体的には少しストレスが溜まっているように感じ、マスク着用もあって反応も少なめであるが、登校できて喜んでいる生徒が多いように感じる。体育・文化それぞれクラブの3年生は「大会や発表会などがなくなり寂しい」「後輩の指導もできていない、心配」等の声があった。行事がなくなり、クラスづくり、お互いのコミュニケーション、友だちづくりが困難になっている。(高)
- 学習に積極的に取り組む生徒とそうではない生徒の格差の拡大。先が見えないことへの不安。自らの力が及ばない虚しさが広がっている様、それからくる焦り、不安。(高)
- 新入生はイレギュラーな高校生活のスタートで、不安を抱え、落ち着かない様子も見られる。(高)
- インターハイ・甲子園の中止のショックからか、無気力な発言が多くなったように感じる。(高)
- 部活の大会が中止になり喪失感を抱いている生徒が多い。(高)
- 県高校総体の喪失感が大きい中、できることにひとつひとつとりくみながら気持ちを切り替えて前に進もうとしている。(高)
- 4月からずっと新規感染者が0で来ているのに、高校総体がなくなったのが納得いかない生徒は多いです。何のために休校になって、自分たちが努力してきたのかわからないと憤る生徒もいました。開催か中止かの選択だけでなく、開催するためにどういった方法が必要かを話し合っほしい、というのが本音なのだと思います。3年生は高校総体の中止に落ちこんでいたようであるが、感染症予防対策としては納得している様子が見受けられた。(高)
- 医療的ケアが必要な生徒で感染リスクの不安から学校に来れない子どもがいる。(特支)
- 久しぶりに再会できてうれしい反面、授業の増加などでしんどい面も見られる。聞こえにくいのでマスクがあるとコミュニケーションしづらい。いつもと違う学校生活へ対応できず、気持ちがしんどいとの訴えあり。まじめな子はトランプなど共有物を触った後にすぐアルコール消毒をしている。気にする子と気にしない子の差がかなりある。(特支)
- 事業所利用が長く利用者同士で相性が合わなくなり、調子を崩す児童がいた。(→学校での預かり日を設けて対応した)年度初め出鼻をくじかれたこともあり、6月からの毎日午後まで気持ちがついていけるかどうか。(特支)
- 休校中で体重が2~3 kg増加した児童が複数いた。とても生き生きと登校してきており、学校が再開しうれしい様子がうかがえた。(特支)

《父母・保護者の要望等》

- ① 休校期間中から、学校再開を求める声、学習の遅れを心配する声、給食の再開を求める声が多い。保護者が在宅勤務できなかった、「学校に見放された、見捨てられた気分」などの声がある。子どもの生活リズムが乱れていることへの不安が大きい。家庭学習への親の対応は困難があったとの声が多い。
- ② 一方、学校が再開されたことでの感染についての心配（登校時や給食の感染リスク含め）も多い。特に特別支援学校などで再開後も登校させない例もみられる。
- ③ 再開後、学習の回復を望む声だけでなく、行事の実施の要望が多い。

- 遅れた部分の学習内容を子どもに押しつけずにゆっくりと教えてほしい（小）
- 家庭訪問、参観日の中止で先生の顔も分からないし、子どもの学校での様子を知りたい、見たい。（小）
- コロナに気をつけなければいけないが、いろいろな行事はできることはやる方向でやってほしい（小）
- 家庭訪問も授業参観も実施できない。父母の声がなかなか聞こえない。運動会が見られず残念。修学旅行だけは！（小）
- スピードが速くなって子どもの学習理解が不足するのでフォローしてほしい。（小）
- 家庭学習を親が支援するのは大変。再開後の授業の中でどのくらい指導してもらえるのか不安。仕事を休めない親はできないことが多くて大変だった。（小）
- 3月休校の時、「先生たちもたいへんやなあ」という声が、4・5月、課題をやらせなければならないが子どもは言うことを聞かない、父も在宅勤務をしているがいつ首を切られるかわからない不安やイライラから「先生たちは何をしているんや」と怒りのTELに、教頭は外面・体裁を整えてほしいと何度も訴える。（小）
- オンラインでの学習は始まらないのか。学校によって対策が違って大丈夫か。学習の遅れが心配。行事が減って思い出をつくっていけるか心配。（小）
- 家庭学習をみてあげられない。家庭によって学力の差が心配。（中）
- 安心して学校に行ってほしい。毎日7時間して、帰ってきたら疲れている。習い事もいけない。授業も気になるが、友達と仲良くなれるか心配（クラス変えしたばかりなので）。（小）
- 子どもが夜までスマホを使用する。昼夜逆転で困っている。6月の再開後休まず登校できるのか不安。生活リズムの乱れに対する学校からの手立ての要望がある。（中）
- 子どもが授業中に質問したくてもそんな雰囲気ではない（教員も遅れを取り戻すのに必死！）。放課後にでも教えてもらえないかとの要望。（中）
- 学習の遅れをどうフォローしていくかが気になる様子。家庭で学習を進めないといけない実態の中で、保護者の中にはどう教えたらいいのか悩んでいる人もいた。（中）
- 学校行事についてはぜひ行ってほしい等の要望がある（入学式、体育祭応援、修学旅行など）。（高）
- 学校に登校させることの不安。休業が長期化し、授業が進まないことの不安。相反するご意見がありました。（高）
- 学校は閉じないでほしい。4月からのスクールバス運行はありがたかった。給食が始まってほっとしている。ギリギリの状態でもがんばらないといけないと思っていた。一時預かりの時に教員によって聞き取りの温度差があり、もっと思いを寄せた対応をしてほしかった。（特支）
- 普通高校とは違い、基礎疾患をもつ児童生徒がいたり、感染症にとっても弱い児童生徒がいたりするため、保護者の用心は相当なものである。緊急事態宣言が解除されても、例えば出席停止をもう少し延長して認めてほしいとか、細心の注意を払ってほしいという要望は、他校よりもかなり強い。今後の行事などのスケジュールが不安。特に修学旅行がどうなるか心配している。（特支）
- 学校が再開されてほっとしている。感染リスクを減らすよう、十分な対策を取って授業をして欲しい。（特支）

(6) 学校で緊急に対策・対応が求められる課題について

- ① 消毒、トイレ・手洗い清掃等の物品確保と、清掃・消毒などの専門業者による対応を求める声が多い。
- ② 少人数学級・指導のための教員増を求める声が多い。特に40人では感染防止ができず、20人・30人学級をもとめる声が非常に多い。緊急の対策が求められている。
- ③ 夏を迎えるにあたり、感染防止とともに熱中症対策としてもエアコン全教室設置（特別教室など含む）を緊急に求める声が多い。

- ただ単に時数回復のための6時間授業の連続は子どもたちにとって大きな負担となっているので改善が必要。今まで通りの行事のやり方とはいかないと思うが、削減しあまりにも簡素化して「はいやりました」では子どもが育たない。(小)
- とにかく、1教室の子どもの人数が多いです。給食を2クラスから3クラスにしてもらいましたが、この形にするのは2週間ぐらいだと栄養士さんに言われました。とにかく制度を変えて、1クラスの子どもの人数を少なくしてほしいです。(小)
- 職員室、教科準備室へのエアコン設置。昨年度、教室への設置が行われたが、特別教室や教員のいる部屋は灼熱地獄で、仕事どころか健康が保てない。(小)
- 夏の厳しさを忘れているのではと思う。コロナも怖いけれど熱中症も怖い。夏休み短縮は仕方ないですませていいのか。昨年度はプールも中止になる暑さだったのに。(小)
- 学校単位ではどうにもならないが、今こそせめて30人学級を導入するべきではないか。もともとせまい教室に40人の子どもの押し込んで「3密を避けよ」は絶対無理です！(小)
- 在校生への心のケア（面談、HR、部活、授業など機会をとらえての指導）。個人面談を実施するための時間の確保。そのため教職員の多忙の解消。カウンセラーの常駐（各校最低1名）。受験日程が今後どうなるか（推薦入試の日程、共通センターの日程など）。3年生に対する受験指導の組み直し（そのためにも早期の受験日程の決定が必要。現状ではストップしている。今は授業の実施に専念している状況。早く着手したい）。冬場の感染状況。第2・3波による休校の心配。(高)
- オンラインにばかり気を取られると、カリスマ教師の動画でよいという話になり、自分たち教員の存在意義を失う方向に流れていくことに気づくべき。参考書代わりに使わせるのはいいかもしれないが。動画の一斉配信は結局、動画による画一教育にすぎません。(高)
- これから夏になるが、ずっとマスクをつけていることで熱中症の危険性が高まる。そのため全教室にクーラーを制限なく、必要な時にすぐ使えるようにしてほしい。(高)
- 夏休みに授業が行われることでの冷房の実施、普通教室にはエアコンが設置されているが、特別教室にはなく早期に設置してほしい。(高)
- 家庭訪問や、電話掛け、郵便など、担任が直接子どもたちと接触を取ることも制限された。もっと柔軟に教育活動にかかわることを考えたかったが、管理職から一律にストップがかかった。学校再開にしても、国→県→県教育委員会→校長→主事会と、県下の学校横並びで、しかも会議を経ないと動けない。放課後支援施設は、いつもどんなときにも柔軟かつ迅速な対応をしてくださり、本当に頭が下がります。(特支)

5、全日本教職員組合の意見

(1) 一人ひとりの子どもたちの声に耳を傾け、不安な気持ちや悩みを受けとめること、教職員はもとより社会全体で、子どもの心に寄り添い、応答すること

- たくさんのストレスと不安を抱えながらも、仲間や教職員と会えることを楽しみに、子どもたちは登校してきます。長期にわたる休校で、登校しにくかったり、心身ともに不安定になっている子どもたちも多いのではないのでしょうか。
- 4月にできなかった新しい出会いの場をていねいにつくり、学校や教室が子どもたちにとって安心して過ごせる居場所であることを、すべての子どもたちに伝えることが必要です。
- 授業や課題を詰め込むのではなく、まず仲間とともに安定した学校生活をつくることが求められます。

(2) 安全で豊かな学びを保障するために少人数学級の実現を

- 40人学級では「物理的距離」を確保することはできません。20人以下での授業などの少人数授業を実施することが必要です。当面、教室内の人数を通常時の半分以下にするために、緊急に抜本的な人的・物的体制準備をおこなうことが必要です。すみやかに、必要な教室の確保、学習指導員やICTアドバイザー等を含む教職員の確保をおこなうことが求められます。
- 子どもたちの指導にあたる教職員を確保するために、不要不急な出張や研修をおこなわないことも必要です。空き教室・空き校舎を積極的に活用するとともに、現在すすめられようとしている学校統廃合計画をいったん凍結し、再検討すべきです。
- 今後を展望して、教職員定数の抜本的改善をおこない、少人数学級を実現すべきです。また、特別支援学校の過大・過密を解消するために、特別支援学校の設置基準を策定すべきです。
- 必要な非接触型体温計やマスク、消毒液等の配備と、手洗い場の整備、夏場の熱中症対策は急務です。また、すべての感染が疑われる子どもや心身の不調を訴える子どもの対応が可能となる体制を確立することが緊急に求められています。すべての学校に養護教諭の複数配置と必要な人的支援の確保、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーの加配措置を緊急におこなうことが求められます。

(3) 教育課程の編成は、柔軟に、子どもの実態を踏まえて

- 「とりもどす」のではなく、子どもたちの今の姿からはじめなければなりません。安定した生活リズムを保ち、適度な運動や休養、睡眠等を保障し免疫力を高め、子どもたちの負担が過重とにならないことを最優先しなければなりません。また、休校中に人との接触が制限され仲間との関係性が断ち切られていた子どもたちにとって、子どもたちが主体的に関わる学校行事などのとりくみも重要です。
- 教育課程の編成は、子どもや学校の実態をふまえて自主的におこなうものです。学習指導要領に拘束されるのではなく、各学校で柔軟な教育課程づくりをすすめることが求められます。また、不安をもつ子どもたちや父母・保護者にていねいに学びを保障する方策をつたえることも重要です。

(4) 教職員への感染拡大を防ぐために

教職員が感染拡大の起点とならないように、教職員の検査体制を整えるなどの対策が必要です。すべての都道府県・市区町村に総括衛生委員会を設置するとともに、すべての学校職場に衛生委員会を確立し、感染拡大の防止対策を具体化すべきです。

- 職員室等での「3密」を防ぐ手立てを確立するとともに、可能な限り教職員の在宅勤務・テレワーク・自宅での研修等が可能となるようにすることが必要です。とりわけ、妊娠中の教職員や基礎疾患を持っている教職員の在宅勤務が可能となるような体制が求められます。また、感染リスクが高い養護教諭への特別な対策が求められます。
- 「1年単位の变形労働時間制」の導入はおこなうべきではありません。

以上